

サービス管理責任者等実践研修

ライフステージに応じた
個別支援計画の取組み事例

【就労分野】

社会福祉法人カシオペア障連

野崎 芳宏

はじめに。近年の障がい福祉は(〇〇な時代)

- ・「障がい」だけではない様々な「生きづらさ」が絡み合い、支援ニーズや課題が多岐となった時代
(より高い**専門性が求められる**時代)
- ・複数のサービスを組み合わせ、ひとり一人に合った支援をカスタマイズする時代
(「抱え込まない」**「連携する」**時代)
- ・契約者の権利意識が高まり、「成果」や「支援の質」「可視化」を強く求められる時代
(**選ばれる**時代、淘汰される時代)
- ・誰でもすぐに情報を取得できる時代、また、支援者もスピード感をもって情報を活かす時代
(家族も含めたチーム支援では**情報の取り扱いが鍵となる**時代)
- ・支援者の慢性的な人材不足(職場定着率)がより深刻化する時代
(**「人材」が事業所の運営を大きく左右する**時代)
- ・地域を意識した支援が求められ、地域の意識も変わりつつある時代
(社会全体が**地域共生を目指す**時代)

「働く」意味・目的とは・・・

- 経済的な保障を得る為
 - 自分の成長のため（「やりがい」「生きがい」「自信」）
 - 社会への貢献
 - 感じる（貢献感、達成感、充実感、疲労感・・・）
 - メリハリのある生活（適度な緊張感、休日に対する価値感↑）
 - 存在価値の証明（障がい者、病者から労働者、社会人へ）
 - 選択肢の多い豊かな生活に（夢へのステップアップ）
 - 大切な人のため（家族、恋人等）
 - 病状や心身の安定につながる
- 等々

「働くこと」を単なる活動（支援の終着点）として捉えるのではなく
個々で異なる人生の（夢や希望に向けた）大事なプロセスとして捉える

例：「企業就労」を軸としたライフステージの変化



「働くこと」の意味や目的は一人ひとりの

「年齢」や「暮らし」によっても都度変化するもの（就労選択の機会の必要性）

わたしたちの「支援対象者」とは

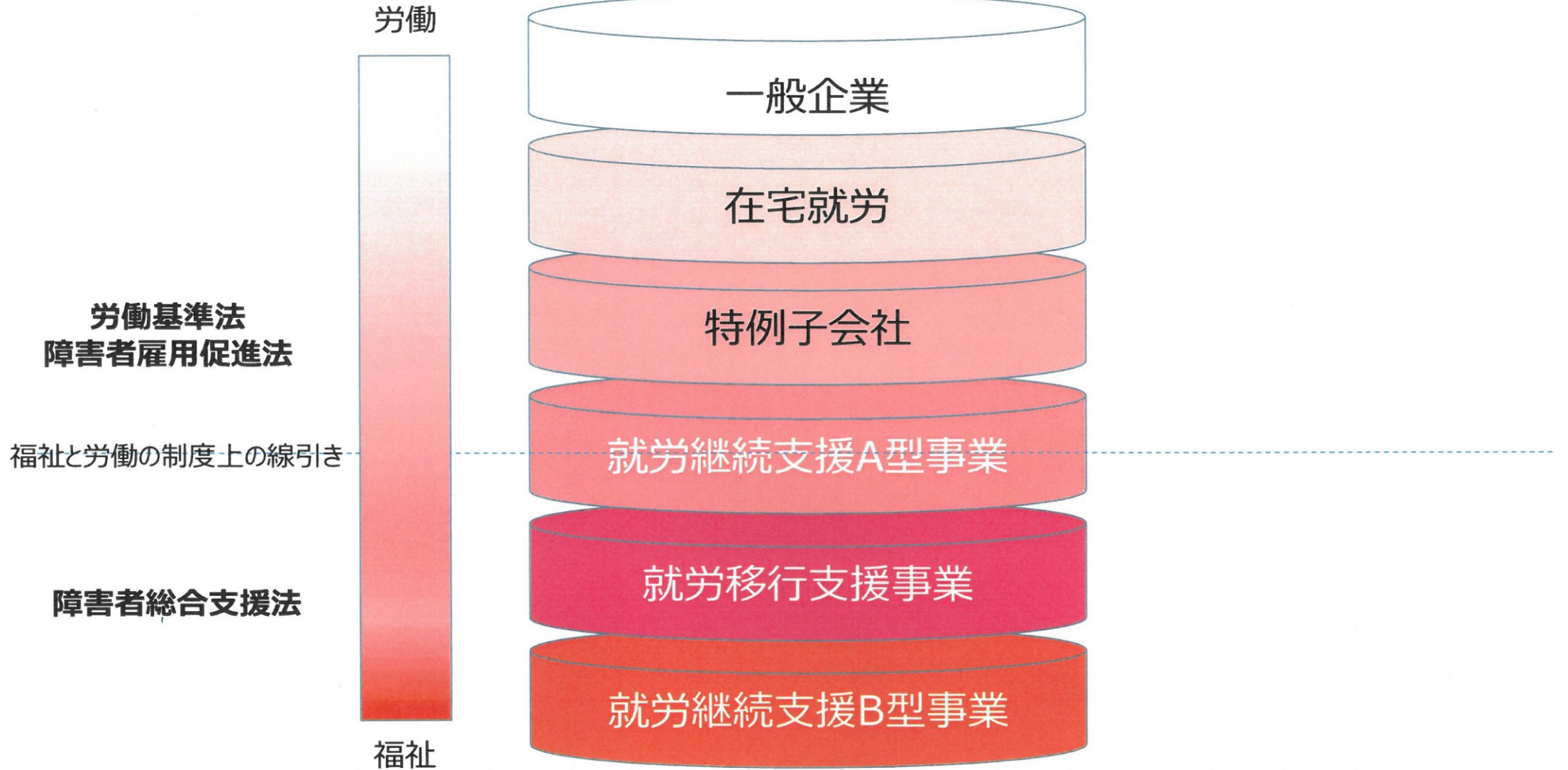


自身の「障がい」だけでなく、
周囲の様々な環境要因から
就労することが難しいとされ、
多くの“生きづらさ”を抱えている人達。

障がいのない人と同様に、
夢や希望をもち、
「働くこと」を通して
人生を変えたいと願う人達。

「働きたい」の支援は「生きる支援」「人生の支援」

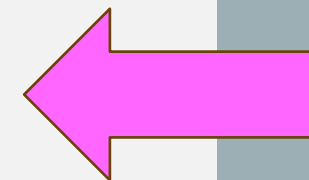
多様化する「働き方」



サービス管理責任者の役割

○個別支援計画のプロセス管理

個別支援計画作成と**モニタリング**



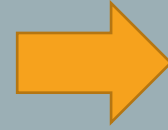
○職員・利用者への指導、助言

職員のサービス提供に対してのスーパーバイズ
利用者の役割を明確にして適材適所の配置等

○関係者や関係機関の連携

利用者ニーズ（満足度低）、複数サービス利用、地域
医療、企業など専門的なアセスメントが必要

アセスメント



個別支援計画

○初期**情報**が**整理**されているか

○初期**状態**の**把握**は適切か

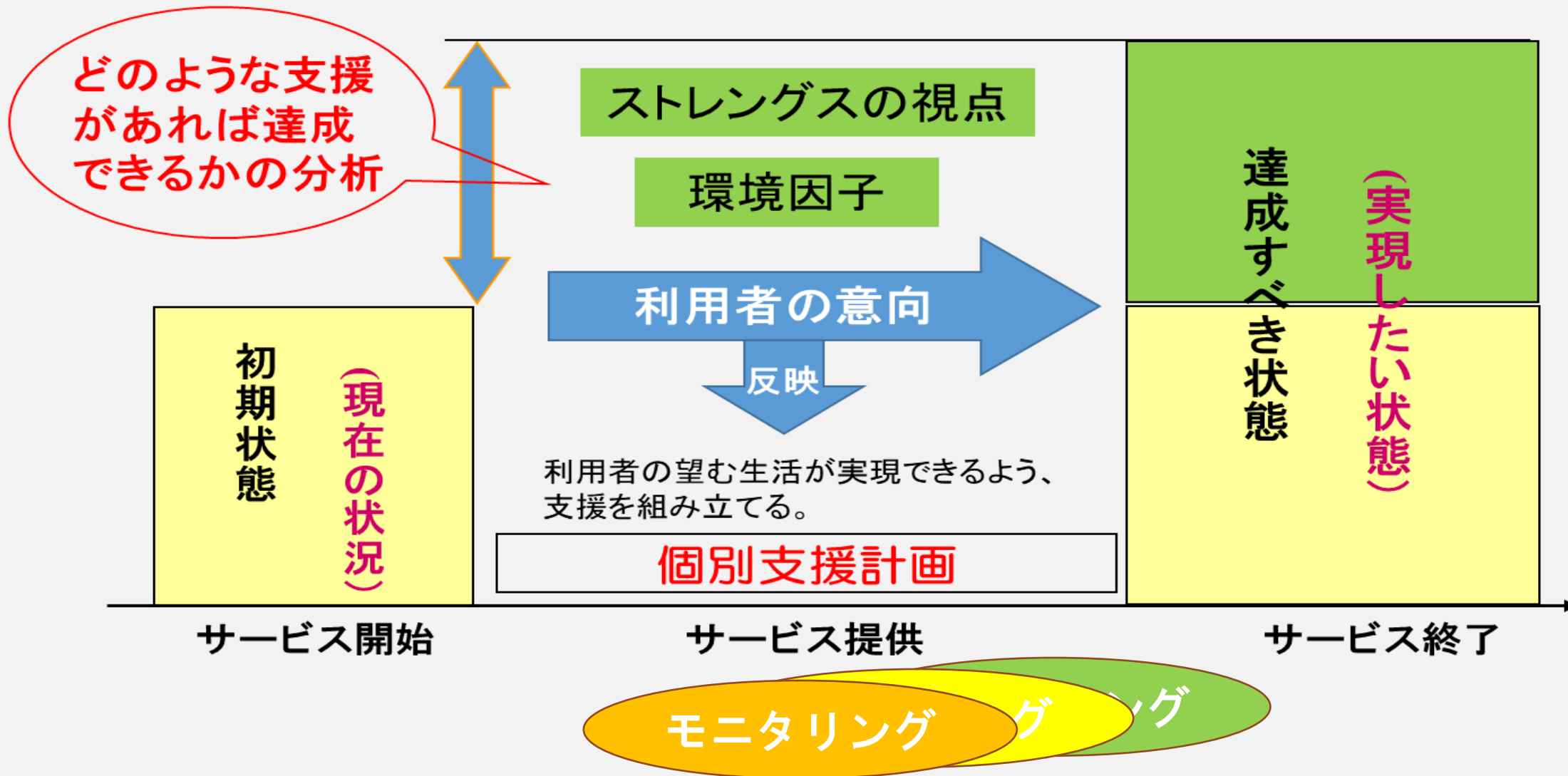
○事業所として利用者の**ニーズ**に
応えられるか

支援目標

支援目標

支援目標

モニタリング



個別支援計画



モニタリング

○サービス等利用計画と**連動**しているか

○**到達すべき目標**の設定は妥当か

○「通いたい」「頑張りたい」と
意欲を持てる内容になっているか

○利用者の**わかりやすいもの**に
なっているか

意思決定支援

ストレッチングス

モニタリング

▷モニタリングや計画の見直しの際に行わなければいけないことは・・・

モニタリング

目標達成の場合の確認事項

⇒ サービスは計画通りに提供されたか？

⇒ 利用者の満足度は？

※ サービス提供と利用者の満足度は別問題

モニタリング

目標未達成の場合の確認事項

- ⇒ **なぜ**達成しなかったのか？
- ⇒ **計画（目標設定）に問題**があったか？
- ⇒ **支援の内容に問題**があったか？
- ⇒ 計画変更の必要性の検討
 - ※ 検討過程を記録に残すことが大事

モニタリング

その上で・・・

⇒ **再度**、アセスメント

⇒ 個別支援計画の**見直し作成**

⇒ 利用者または家族へ説明（**共通理解**）

モニタリング

6ヶ月

個別支援計画
の作成

個別支援計画
の見直し

定期的なモニタリング
・ 積み重ね（記録）
・ 職員間の情報共有

達成状況のモニタリング
（見直し前）

根拠

【就労分野】

モニタリング

事例を通して

事業所:多機能型事業所(就労移行支援事業)

事例の概要:広範性発達障がい、軽度知的障がいのある20代女性
精神保健福祉手帳 2級 ※ 療育手帳は取得できず(IQ77)
障害年金 2級
服薬 無 定期通院 無

支援学校卒業後、老健施設の清掃員として4年間就労。**就労上の課題**が解決できず退職。
就職時から就業・生活支援センターが支援に係わっていた。
退職後、多様な委託訓練を受講し就職を目指すも、就職に結びつかず、在家庭となる。

多様な委託訓練終了後の会議で、「課題解決」と「自分自身を知る」ということを目標に
福祉サービス(就労移行)利用の提案を受け、就労移行支援事業につながった事例。

サービス等利用計画との連動

<サービス等利用計画>

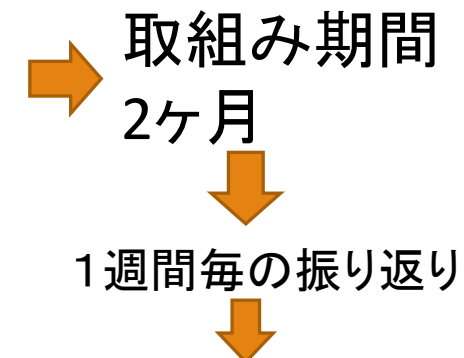
希望する生活	ネコも一緒に暮らせるアパートでの一人暮らし。友達(仲間)と遊んだりしながら楽しく暮らしたい。(旅行に行きたい)
総合的な援助の方針	本人が自分自身の特徴や性格、得意なこと、苦手なことを明確にわかるよう支援する。また、苦手なことや課題に対して具体的な取り組みを決めて「 継続して働ける 」ことを目標に取り組みを進める。
長期目標	自分自身を知り 、自分に合う職場をに就職する。継続的に働くため、 余暇も充実させて楽しく暮らす 。
短期目標	これまでの振り返りをし、良いところ、課題となるところを整理し、目標を 自分で決めて 取り組む。

<個別支援計画>

長期目標	自分らしい生活ができるよう自分ですること、手伝ってもらった事を整理し、2年後の4月1日～の一般就労を目指す。
短期目標	事業所内、職場実習等通して色々な作業を経験し、〇〇さんの得意な事、苦手な事を知る。 作業を通して あいさつ 報告 相談 を中心に人とのかかわり方を学ぶ。

<個別支援計画>

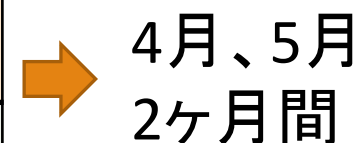
具体的目標	わたしがやること	応援する人がやること
色々な作業に取り組む	自分にはどんな作業が合うか意識して取り組む	作業予定表を作成し、スケジュールを明確に示す
2つ+1つのあいさつ ・おはようございます ・お疲れ様でした。 (・ありがとうございます)	あいさつをする。 (施設外支援先) (他の利用者、職員)	職員からも積極的に声掛けをする。 役割分担とやることを明確にする。



変化に応じて支援内容変更あり

<個別支援計画に沿った支援プロセス>

施設外支援先で職業評価(得意・不得意)を知る。	リサイクル業者にて、資源ごみの回収業務の補助を行い、作業評価をしてもらいながら、自分の良いところ、課題を知る。
2週間ごとに振り返りを行い。自分で作業の様子、感じたことなどプチミーティングする	本人、社長、担当者、移行支援事業サビ管ナカポツで振り返りを行った。



<個別支援計画に沿った支援プロセス>

施設外支援先で職業評価(得意・不得意)を知る。	評価の中で、良いところ、課題となるところを整理し、 取り組みの重点項目を決める。 その項目を 会社評価と本人評価 を比較
1週間ごとに振り返りを行い。自分で作業の様子、感じたことなどプチミーティングする	会社評価と本人評価をもとに 本人、社長、担当者、移行支援事業サビ管、ナカポツ で振り返りを行った。

【取り組み課題】

	内 容	できた○	できない×
		評 価	
1	十分な睡眠(6~7h)をとって仕事に来たか		
2	衣服・身体の不快感は無いかな	猫:	手袋:
3	こまめに手洗いをしたか		
4	集積所に到着後、必ず降りたか		
5	まわりを見ながら相手と息を合わせて協力できたか。		

➡ 6月
1ヶ月間





← 4月、5月で
わかった取り
組むべき課題

<個別支援計画に沿った支援プロセス>

【職業評価で良かったところ】

- ◎毎日休まず通うことができています。
- ◎あいさつはできている。(周りからの声掛けが良かった)
- ◎作業を覚えるのが早く、急な変更も対応可能。
- ◎選別作業は指示通り、間違えずに出来ていた。

<モニタリング>

具体的目標	達成状況の評価	目標の達成度	やってみての感想	今後
色々な作業に取り組む		ごみの積み込み、分別、どちらも思ったよりできた。	前半、張り切りすぎて、疲れが出てきて、作業が雑になったことが反省。作業でなくそれに関連した課題が多かったから、引き続き頑張りたい。	継続
2つ+1つのあいさつ ・おはようございます ・お疲れ様でした (・ありがとうございます)		Aリサイクルセンターの皆さんが普通に接してくれて楽しかった。	慣れてきて、雑になったことで迷惑をかけたところがあった。でもきちんと振り返りで、注意してもらったので直すように意識できた。	変更

<モニタリング後の支援計画>

具体的目標	わたしがやること	応援する人がやること
色々な作業に取り組む パート2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を意識して取り組む ・疲れた時は疲れたと伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プチミーティングを継続する。 ・良いところは認め、悪いところは明確に伝える。
仕事以外の過ごし方を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・友人と出かけたり、リフレッシュの時間も作る。 ・疲れた時は体を休ませるように過ごす。(土日のどちらかは休む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しむときと、疲れた時のバランスを見守り、声掛けをする。 ※週末と週初め 意識的に声掛け

<モニタリングについて>

- 実際の仕事を通して、課題の抽出をしたので取り組むことが具体的で明確になった。
- 課題を「ダメなこと！」にしないで、どのように課題解決したらいいか！というミーティング内容が良かった。
- 移行支援事業所だけでなく、企業、ナカポツ、行政等と役割分担を明確にし、定期的な情報交換ができたのが良かった。

<最後に…>

就労へのステップ **体験を通じてのアセスメント。**

- 本人と一緒に障がい特性の理解。
- 得意不得意を知る。(いろいろな仕事内容)
- 自分に合った仕事を知る。(発見、変化)

具体的な支援内容と記録をもとに**定期的モニタリング**実施

支援や体験を通して変化する

